

令和2年度 自己点検・自己評価結果

目次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	2
(3)	教育活動	
	介護福祉学科.....	4
	作業療法学科.....	6
	理学療法学科.....	9
	看護学科.....	12
	助産学科.....	14
	看護学科通信課程.....	16
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	19
(4)	学修成果	
	介護福祉学科.....	21
	作業療法学科.....	22
	理学療法学科.....	24
	看護学科.....	25
	助産学科.....	27
	看護学科通信課程.....	28
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	29
(5)	学生支援.....	30
(6)	教育環境.....	32
(7)	学生の受入れ募集.....	33
(8)	財務.....	34
(9)	法令等の遵守.....	35
(10)	社会貢献・地域貢献.....	36

令和2年度自己点検・自己評価報告書作成に際して

1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	総務課
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

2. 評価数値の意味

- 4 … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

(1) 教育理念・目標

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 本校は初代理事長が示した建学の精神のもと、教育理念・教育目的・教育目標を定め「学習の手引」にまとめており、福祉・医療分野において社会のニーズに対応できる人材の育成を目指している。
2. 職業教育にふさわしい高度な専門知識、技術教育は勿論、福祉・医療人として求められる豊かな感性、人に寄り添える人間性、社会貢献への使命感を育むことに努めている。また、各福祉・医療分野の強みを結集して人をケアする時代に即して、チーム医療を支えるべき多職種連携教育(IPE)に取り組んでいる。
3. 高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校となることを目指して教育の質の向上に取り組んでいる。
近年は法人全体の中長期事業計画と単年度の運営目標・計画を「ビジョン」として定め、それを基に各学科長等が自学科の運営計画を立てている。また、全体でビジョン発表会を実施する事により教職員の自覚と各学科部署の運営改善を新たにしている。
4. 本校の教育理念及び各学科の教育目標、ならびに、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーは「学習の手引」やホームページに記載されている。また、高校生・保護者には進学の大きなポイントとなるオープンキャンパスにおいて詳しく説明している。
5. 関連業界・実習施設等から選出された外部委員を交えた教育課程委員会や、実習施設訪問等の機会を通じて得られる意見・情報をもとに方向づけ及び見直しを行っている。

【展望等】

各取り組みを、本校の教育理念・目標、使命、社会のニーズを確認する機会となるように導く。

(2) 学校運営

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づき、年度毎の重点項目を定めた「学校運営方針」を作成している。学科長はその学校運営方針に基づき「学科運営計画」を作成している。
2. 年度毎に「事業計画」を作成し、年度初めの全体会議で提示している。作成においては、学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づくようにし、理事会の承認を得ている。
3. 本校の組織運営及び管理は、法人の理事会・評議会のもと、学校においては校長を責任者、学校運営会議を議決機関とし意思決定を行っている。また本校の校務分掌組織は学則等において明記されている。
4. 法人本部が所管しており、基準や手続き等を整備して適切に実施している。また、2019年度より人事考課制度を実施している。
5. 意思決定のプロセスと仕組みは制度化しており、組織図及び校務分掌によって業務範囲が示されている。また、各学科では専任教員を主体とする会議体として随時教務会議を開催し、学科内役割分担を適切に行い、運営に当たっている。
6. 専修学校基準及び学養成施設指定規則を遵守し運営している。また倫理委員会の開催、学習サポートセンターと校長・統括部長との連携による指導などによってコンプライアンス体制を構築していった。
7. ホームページのトピックや情報公開ページにて、本校の教育活動・運営状況等を社会に対して広く公開している。特にコロナ禍においては、スピード感ある情報発信を心がけた。また、保護者で組織された後援会が発行している会報においても教育活動をはじめとする各種情報を発信している。
8. 学内の情報共有、伝達はサイボウズによりシステム化の充実が図られた。また、特に令和2年度からは、遠隔授業の必要性からICT教育や学生が活用できるデジタルコンテンツ蓄積に力を入れている。それに伴い、必要な機器類の見直し及び整備も行った。

【展望】

体制やシステムの整備は充実してきている中で、職員一人ひとりが所属している部署だけでなく法人全体を俯瞰して運営に参加するという機運を醸成していく。

令和 2 年度はコロナ感染拡大の影響のために遠隔授業や分散登校もあり、その連絡や状況報告を文書や Web 媒体など様々な方法で学生・保護者に提示するよう努めた。

コロナ禍にあっても、学生・保護者・関係施設病院・地域にきめ細やかな誠意ある対応に心がけて、本校への信頼、期待、支援に繋げる。

(3) 教育活動 介護福祉学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 厚生労働省で定められた基準に則り、カリキュラムを編成している。また、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを策定し、その目的達成に向け授業を実施している。
2. 令和3年度カリキュラム改正に伴う変更届をおこなった。「人間関係とコミュニケーション」「介護の基本2」「介護実習Ⅰ・Ⅱ」の科目において、チームマネジメントや多職種連携について学べるよう、授業概要にそれらの項目を追加した。
3. 各学年を前期・後期に分け、各科目の到達目標や実習を相互に関連させながらカリキュラムを編成している。また指定規則改正等によるカリキュラム変更の際は、教育課程編成委員会にて内容を精査している。
4. 施設実習での職業教育の視点に立ち、知識や技術だけでなく、社会的マナーや態度も身につけられるように、演習や介護技術の授業に取り組んでいる。実習施設の精査や見直しも実習ごとに行い、学生が実習において学習成果を出せるよう心掛けている。

5. 実習期間を1年次前期・後期、2年次前期・後期の4期に分け、学修進捗に合わせた段階的な実習をおこなっている。
6. 学生の多様化に伴い、実習前に実習施設と連絡を取り、個別に打ち合わせを行っている。それにより、学生個々の特性を活かせるような実習内容になるよう努めている。受け入れ施設側の学生状況に対する理解も進んでいる。
7. 学生に授業アンケートを行い、結果を学科内で共有し、フィードバックしている。また、教員相互で授業見学をおこなう等、1等教員同士での授業内容のチェックを行っている。
8. 年2回教育課程編成委員会を開催し、外部委員からの意見を聞く機会を設け、授業や実習指導内容に取り入れるようにしている。
9. 前期・後期共に定期試験および成績認定会議を行い、学則内の規定に則り単位認定を行っている。
10. 資格取得のための授業を独自に設け、必要な知識を習得できるよう努めている。成績が一定レベルに到達しない学生に対しては、空き時間や長期休暇期間を利用して補講をおこなっている。
11. 厚生労働省で定められた要件に従い、教員を確保している。
12. より専門的な分野については、その分野に精通した非常勤講師を確保し、目標到達に向けた授業を行っている。
13. 14. コロナの状況により、予定されていた学外研修が中止になってしまい、先進的な知識、技術に関する習得はできなかった。しかし、学内研修において、PBL授業の進め方を学んだり、ワークショップに参加したりして、指導力や資質向上に努めた。

【課題】

学外研修参加による先進的な知識・技術の修得

【改善方策等】

研修に関して、情報収集をする。

リモートによる参加を模索する。

感染が収まっている時期には、感染予防に注意しながら参加する。

(3) 教育活動 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1、2.

学校の理念に基づき教育課程をデザインしている。また、厚生労働省の認可を受け、その基準を遵守している。同時に、「WFOT（世界作業療法士連盟）認定校」「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定校」の第三者評価を活かした教育課程の編成とその実施方針を策定し、さらにブラッシュアップをした。

3. カリキュラムは、項目1・2の認可・認定基準を満たしたものとなっている。また、カリキュラムは、教育課程編成委員会等のフィードバック等を受け、定期的にその内容の見直しを図っている。令和2年度は、非常勤講師を含めた教員間の連携をより密に図り、体系的な授業を展開する工夫を行った。

4～6.

昨年度に続いて、教育課程編成委員会等のフィードバックを活かしながら業界を巡る動向を適宜把握し、学生のキャリア形成を育むような授業内容を検討する学科会議を定期的に開催した。

各授業開始時には丁寧なオリエンテーションを実施し、①シラバス②科目の位置付け③目的④到達目標⑤成績評価の方法と項目⑥授業計画等について説明を行った。さらに職業教育を最重視する観点から、学内外の演習・実習の時間数を可能な限り確保し、展開方法を工夫しながら実施した。また、臨床実習では

診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を取り入れる等の工夫を行い、演習・座学授業では、問題解決型授業と科目進行型授業の授業展開を分ける工夫を行った。

7. 昨年度に続いて、授業アンケートによる教員へのフィードバックを開講する全ての授業科目で行った。また、授業や個別面接の質を上げることを目的とした定期的な学科ミーティングで、教員間の相互フィードバックの機会を継続して設けた。

8. 昨年度に続いて、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等にて、卒業生や関連分野業界である病院・施設など外部関係者から評価を受け、その結果を積極的に学科運営と職業教育に取り入れている。

9. 成績評価ならびに単位認定・卒業認定は「学則」と「細則」に従い適切に行った。また、授業開始時に学生に対し評価・認定がどのような手続きの中で行われることを周知した。

10. 資格取得に向け受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施した。

令和2年度も学校冬期休業中に教室を一部開放し、教員が分担出勤してサポートしながら、国家試験対策を行った。

11～14.

昨年度に続いて、「学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育み」を実現出来る授業展開、及び学生への個別支援力を学科教員の成長テーマとした。そのための共有スローガンとして「臨床力」「教育力」「地域貢献力」を掲げている。その実現のために、教員としての質の向上（臨床・社会活動での臨床能力向上、修士号・認定作業療法士等の取得）を継続した。また、関連専門職の動向を適宜把握しながら、各々の研鑽内容を、学科会議の中で定期的に共有するよう努めた。

【課題】

- 1 指定規則改正後の新カリキュラムが令和2年度入学生から適用されている。中でも大きな変更点である「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開をすること。
- 2 令和元年度から本格的に取り組んでいる、ICTを活用した学生一人ひとりの学習ニーズの分析をよりブラッシュアップさせ、国家試験に向けた弱点对策等に生かすこと。
- 3 新カリキュラムに対応するためにも、教員一人ひとりのさらなる「臨床力」「教育力」「地域貢献力」の向上を図ること。

【改善方策等】

課題1に対して

臨床実習指導者ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携の中で次の改善方策を図る。

- ① 臨床実習（含む、セミナー）における「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」を主体とした教育方法の工夫、開発をより体系的に進めること。
- ② 演習・座学授業では、問題解決型授業と科目進行型授業の手続きを分け、授業展開をする工夫、開発をより進めること。

課題2 に対して

ICT を駆使した学習サポートをより積極的に図る。具体的には、次のとおりである。

- ① 学生が4年間で学ぶべき基礎知識のデータベース化を継続して行う。
- ② ①で作成したデータベースから、適切な難易度と学習範囲の課題を、定期的に各学年の学生に配信する。
- ③ ②の結果を精査分析し、学生の個別指導に役立てる。

課題3 に対して

- ① 教員一人ひとりの年度ミッション（前期・後期）を明確にする。
- ② ①のミッションの進捗状況などを、毎月第1回目の学科ミーティングにてシェアリングする。

(3) 教育活動 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 規定に則り年度内に2回の教育課程編成委員会が実施され、その方針が定められている。
2. 1年次に基礎科学と基礎医学、2年次に臨床医学、2年次後半から3・4年次にかけて専門分野を学ぶといった修業年限に応じた到達レベルや時間の確保はできている。
3. 修了に係る授業時数や単位数を提示しており、その内容は必要な技能を修得するための適正な時間数となっている。また、シラバスに行動目標を適宜記載し、必要な教育到達レベルを提示している。
4. 現行のカリキュラムは、他の養成校より実践的な教育を目指したものとなっており、学外実習の時間数も十分である。なお、令和2年度からの入学生を対象とした指定規則の改正にともないカリキュラムの一部再編を実施し、学生に過度な負担とならないような工夫もした。
5. 関係施設等や業界団体等との連携により、定期的に教育課程編成委員会を開催している。その中で話題となった内容を踏まえ、カリキュラムの再編まではいかないが授業内容を適宜検討している。
6. 1年次にアーリーエクスポージャー（早期体験学習）として、医療機関と介護老人保管施設の見学や

体験を実施し、医療・介護を学ぶ心構えを身につけ学習意欲を高めている（基礎実習）。3年次には、患者や利用者を対象として実際に評価を実施し問題点の抽出を行っている（評価実習）。最終学年の4年次には、評価によって抽出した問題点に対しプログラムの立案・実施をすることで、臨床場面における一連の流れを体験している（臨床実習）。このように、各学年に応じた実践的な職業教育を行うことができています。しかし、令和2年度1年生は新型コロナウイルスの影響で学外実習としての実施は困難なため、見学先から非常勤講師を招いて講義を行うことで対応した。

7. 学生による授業アンケートが実施され、教員にフィードバックされている。また、その一部の内容について、教育課程編成委員会の中で関連業界等と共有が成されている。授業アンケートに関しては見直しの動きもあり、より有益な情報の伝達が期待される。

8. 各実習施設に必ず足を運び、様々な意見を聴取している。また外部団体である一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価認定を受けている。平成30年度にこの評価機構から2回目の審査を受け、「適」の評価をいただき、令和元年度から5年間有効となっている。令和2年度からの指定規則改正により第三者評価が必須となったため、認定審査が有料になるが今後も5年ごとにこの評価を受ける予定である。

9. 成績評価、単位認定、進級・卒業認定の基準は、各科目のシラバスや学則ならびに理学療法学科細則に記載・提示されており、明確になっている。また、成績評価、単位認定、進級・卒業認定の基準を適切に運用するため会議により客観性を確保している。

10. 4年次後期に、資格取得のための国家試験対策が理学療法総論という科目としてカリキュラムに位置づけられている。また、6で述べた関連分野における実践的な職業教育も資格取得に関する指導の中核をなすと考える。なお、就職後も連絡を取れるようにし、国家試験不合格者に対しても指導できる体制を整えている。

11. 臨床経験並びに人生経験豊富な教員が確保されている。また、常勤教員に限らず、非常勤講師においても開講以来10年以上継続して担当いただいている方が多くいる。さらに、個々の教員により授業を完結させるのではなく、教員間で連携し内容の統一化を図っている。

12. 卒業生を含めて関連業界と連絡を密にし、優れた人材確保の足掛かりにしている。

13. 関連業界との連携により、教員の研修に取り組んでいる。

14. 外部のコンサルティング会社によるキャリア開発や、学内委員会等の研修会に全教員が参加できた。

【課題】

早急に対応が迫られる課題は特にないと考える。引き続き能力開発の機会を継続的に与えられるべきであると思うが、社会状況の変化に寄るところが多く、努力課題とする。

学内の取り組みは、社会情勢や学内のシステムの変更により今後も調整が必要であると思われるが、柔軟に対応していく。

【改善方策等】

学内 WG の活発化などに伴い参加機会が増える見込みである。それらに対しての参加環境を部署として整備し事業負担を分散・効率化することで対応する。

(3) 教育活動 看護学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。
教育理念に基づき、変化する社会に対応しつつ、多職種を養成する教育機関としての特色を反映することも加味して、シラバスに基づき実践している。
2. 指定規則および「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標として、本学科のディプロマポリシーを明文化している。
3. カリキュラムポリシーを策定し、段階的に学習が進められるようカリキュラムを編成している。
また、各科目はシラバスをベースに到達目標と学生の到達度と照らし、授業方法、内容等の妥当性を考察し、改善を行っている。
4. 講義、演習、実習の効果を踏まえ教育活動しているが、技術教育において改善が必要な部分がある。
今年度はコロナ禍にあり、座学においては遠隔授業を早期に導入し、遅れが生じないよう対策した。臨地実習に関しては、学内実習に切り替えざるを得ない時期もあったため、制約の中で臨地に近い経験を保証する方法は今後も検討する必要がある。

5. 教育課程編成委員会、実習施設との情報交換を定期的を実施し、現場の意見をカリキュラムに反映できるよう努めている。
6. 教育課程に基づき、体系的に実施している。また、臨地実習における学生の学びを保証するために臨地実習指導の手引きを作成している。
7. 授業アンケートから個々の教員の改善点を見出している。また、令和4年度入学生から適用される指定規則の改正準備として、カリキュラムを評価し、本校の実態に即したものを検討した。
8. 施設アンケートより、コミュニケーションと看護技術に課題があるとの意見をいただいている。
9. 成績評価・単位認定に関しては、本校学則及び学科細則に基づき厳正に実施している。全科目の評価方法について点検し、シラバスに明記している。
10. 国家資格取得のため入学時から段階的な学習が進められるよう努めている。学年全体への働きかけと、一人ひとりの学力面・メンタル面に応じた支援には改善の余地がある。
11. 人間的な教育体制は整っているが、情報・問題解決過程の共有に関しては組織的な成長の余地があり、努力している途上にある。
12. 実習指導に関しては、連携強化に努め、協力が得られるよう取り組んでいる。また実習先の施設から講師派遣を依頼し、医療現場の実態に即した教育が実現できるように取り組んでいる。
- 13、14. 学科内の課題に即したワーキンググループを作ったが、調整事項の多発から、教員個々が腰を据えて学ぶ一年とは言えなかった。

【課題】

入学する多様な学生に対して、現状から教育方法を検討し、着実に知識・技術を身につけるための本校ならではの方策を検討する必要がある。

【改善方策等】

カリキュラム改正を機に技術教育および看護過程の教育プロセスを見直し、学生が確実に身につけられるよう体系化する。

(3) 教育活動 助産学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。
教育理念に基づき、変化する社会に対応しつつ、多職種を養成する教育機関としての特色を反映することも加味して、シラバスに基づき実践している。
2. 「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」における「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、また全国助産師教育協議会の示す「ミニマムリクワイアメンツ」を到達レベルの参考指標としつつ、本学科のディプロマポリシーを明文化している。
1年間の修業年限の中で求められるレベルおよび内容を学生にも到達目標として示した上で適宜点検を行いながら個別状況の把握と支援に努めている。
3. シラバスをベースとしている。入学時のレディネスにバラつきがあるが、到達目標と学生の到達度と照らし、確認しながら個別対応を行っている。
4. 実習での形成的な成長を可視化しにくい課題があったため、今年度は中間期の到達レベルを明確にできるルーブリック評価表を作成したことで個別の課題が見きわめやすくなった。
5. 年2回開催する臨地実習指導者会議で、本校の教育課程について説明し、意見交換を行っている。特に到達度については繰り返し伝え、理解を得ている。

6. 助産学実習は分娩介助という医療行為を実践する場であり、対象者の権利を擁護するために、学生であってもその責任を自覚した取り組みと、対象者の安全を保障できる準備が求められる。技術習得に関しては、段階的および個別的に支援を行っていることで、実習場での学生の助産実践は対象者から高い評価を得ている（施設へのアンケート調査）。
7. 科目ごとの授業評価は行っていないが、コマごとの学習目標に即した授業評価を実施している。学生満足度調査においては、教育カテゴリに関する学生の満足度は10点中8.6点であり、学科の教育活動については高評価を得ている
8. 実習施設とは日頃から意見交換がしやすい関係構築に力を入れている。臨地実習終了時には、実習指導に関するアンケートを実施し、準備、実習内容、教員との連携等について確認を行い、修正が必要な場合は対応している。
9. 成績評価・単位認定に関しては、看護師養成所指定規則及び本校学則に基づき厳正に実施している。全科目の評価方法について点検し、シラバスに明記している。
10. 国家資格取得のために段階的な年間計画に基づき実施している。入学と同時に国家試験オリエンテーションを実施し、講義・実習が国家試験対策となるよう、計画的にアプローチを行っている。
11. 教員間の関係を良好に保ち、互いの良い面を出し、やりがいをもって職務に当たれる組織づくりと、離職防止に努めている。本学科は少人数の組織であるが、教員会議での意思決定を重視し、合意形成に基づき学生から信頼を得られるよう各人が行動している。役割については円滑なご業務遂行を維持できるよう分掌している。常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。
12. 講師や実習施設との関係を重視しながら、情報収集や人脈の拡大に努めている。
13. 令和2年度入学生から、入学前に母性看護学の課題を提示し、入学後、協同学習という形で共有する方法で助産学への移行や、学修内容の理解の促進を図っている。その際は準備段階から共に展開することで教員同士が学び、学科内の指導力の向上を目指している。
14. 学内での研修には積極的に参画している。

【課題】

1. 授業評価制度の未整備。

【改善方策等】

1. 科目、単元ごとの評価について学校全体の取り組みの中で導入できるよう関心を寄せ、参画する。

(3) 教育活動 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	—
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 学校の理念、方針に沿って教育課程を基に年間計画を立案し、月間計画で調整して計画を実施している。教育課程は保健師助産師看護師法の看護師等養成所指定規則及びガイドラインにのっとり作成し、根拠は明確になっている。
2. 国家試験の合格率を見ると、令和2年度は昨年度よりも合格率が低く、全国平均にも届いていない。要因としては、教員の異動が多かったことやコロナ禍で実施できなかった実習の振替授業や課題等のため教員も手探りで学生指導に当たっていたこと、また、この学年から授業課題の内容を大きく変更したことなどが考えられる。
また、5期生の基礎看護学実習Ⅰの単位取得率が低いため、卒業までに3年間必要な学生が現時点で10名出ている。今後は基礎看護学実習Ⅰの単位取得率を上げる為の検討も必要となる。
3. 現在のカリキュラムは体系的に編成されていると考える。なお、カリキュラムは令和2年度4月から修正されたもので実施している。
4. すでに准看護師として就業している学生のため、准看護師とは違う看護師としての視点や知識・技術が必要であることを常に意識しながら、授業やその他の指導に当たった。教員にもその違いを意識しての

授業を行うように促した。また、卒業生に協力してもらい、国試に向けて学習や卒業後の変化等について学生に話してもらう機会を作っている。

5. 各実習施設には、実習打合せの際に学校及び学科の方針、年間計画、履修進度等の説明と、実習対象学年の情報を提供し、実習時の学生の情報や実習へのご意見もいただき情報共有を心がけている。

7. 実習終了後に学生へ実習についてのアンケートを実施し、教員間および実習施設との情報共有は行っている。座学については授業体制等の関係もあり、現在は実施していない。今後実施するための検討が必要である。

8. 5で記入した通り、実習施設との情報交換から、意見に対して検討し取り入れるようにしている。

9. 成績評価・単位認定・卒業認定においては、学則・細則・規定に明記してあり、実施している。

10. 資格取得の意義や教育課程上の位置づけは入学ガイダンスから折に触れ学生に伝えている。少人数制の指導や模擬試験、インターネットを活用した学習支援、業者及び教員の補講等を実施している。令和2年度は、学生に直接指導やフォローする機会が少なくなっていたが、メールや電話での関わりを持つように心がけた。教員の異動も多く、学生も誰に相談していいかわからなかったという声や直接会う機会が少なく、不安も大きかったという意見も学生から聞こえてきており、今後の課題となる。

11. 入職した教員の専任教員資格取得のための準備を行った。また、授業案や課題作成等の指導、他教員からのアドバイス等を行い支援した。

12. 看護協会の職業斡旋事業（e-ナースセンター）と協力して、添削教員や専任教員の募集・採用を行っている。

13. リモートの会議も多くなったことから、昨年まで出席できなかった全国通信制看護学校協議会の出席や、国試に向けた業者の研修等に出席することができた。今後は、各自のスキルアップのための研修に参加できるように調整したい。また、学会等への参加も促していきたい。

14. 各教員に必要な研修等を案内するようにしているが、新型コロナウイルス感染対策のため研修が少なく、参加頻度は低かった。また、授業は担当以外の教員も参加できるように計画を立てた。

【課題】

1. 基礎看護学実習Ⅰの単位取得率を上げて、2年間での卒業を目指す。
2. リモート授業の確立と効果的な学生への個別フォロー・指導の方法の検討をする。
3. 教員一人一人がスキルアップできる環境の整備を行い、校外での研修の参加を図る。
4. 教職員間での情報共有を密に行い、全員が同じ目標に向かって学生指導できる環境を確立する。

【改善方策等】

1. 基礎看護学実習 I の紙上事例添削方法を検討し、スキルを身に付けられる方法を検討する。
2. ICT（リモートおよび配信）マニュアルを作成する。
3. 学会や研修への参加を促し、参加後の伝達講習を実施する。
4. 適宜打合せを行い、教職員間の情報共有を図る。

(3) 教育活動 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 厚生労働省で定められた基準に則り、また学校の教育理念に基づき教育課程を編成し、その実施方針が定められている。
2. 3年間で修了する学科である。1年次から3年次まで、修業年限に応じた到達目標を設定し、学習時間の確保をしている。
3. 入学から卒業までの授業時数や単位数は、歯科衛生士としての必要な技能を修得するための適正な時間数となっている。また、カリキュラムは教育理念・教育目的・教育目標を受けて体系的に編成されている。
4. 卒後の歯科衛生士像をイメージさせやすいよう、1年次より学外実習を行っている。また、職業人となった時に必要となるコミュニケーション能力を育成し、未来の歯科衛生士として主体的に考えることを身に付けさせている。
5. 歯科衛生士の職能団体である歯科衛生士会や、関連業界のメンバーと連携を取り教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムを開示、授業内容を適宜検討している。

6. 臨地臨床実習は歯科診療所をはじめ、大学病院や小学校、中学校と幅広く実施している。実習期間中は教員が巡回し、実習指導者と意見交換を行い、特に実技面での習得に力を入れている。
7. 学生による授業アンケートを全教科行っている。校内実習では科目主担+補助の教員2名体制を取り、お互いの授業を評価し意見交換し授業の運営の向上につなげている。
8. 教育課程編成委員会（各分野の外部委員が参加）にて情報を公開し、さまざまな立場からの評価を受け改善に努めている。
9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準に関しては、学則及び歯科衛生学科細則ならびに各科目のシラバスによって定められている。各判定の際はそれらに従って評価した成績資料を基に会議を開催し、学校長の認定を受けている。
10. 国家試験対策として全教員で学生をサポートすると共に、外部講師による補講講座・模擬試験等を行っている。本年度は厳しい結果となったため、更なる努力を積んでいく。
11. 教員については、指定規則の教員資格に適合した人材を確保し、育成に努めている。新人教員については他の教員の授業見学を積極的に行い、自らの授業を組み立てる際の参考にしている。また、非常勤講師については実践の場で活躍している人材を確保している。
12. 卒業生も含め、優れた教員を確保するべく広く情報収集している。
- 13、14. 資質向上のため、積極的に関係団体や諸機関の開催する研修会や講習会に参加し、教員間での知識の共有に繋げたい。

【課題】

経験の浅い教員が多いため知識・技術・資質の向上について更なる努力が必要。
夜間部が完成年度を迎え、3学年×2（昼夜）となり、教員側も対応が立て込んでしまっている。
学生に対して満足な教育・支援を行うために更なる人材の確保が必要。

【改善方策等】

関連諸機関の研修に参加し自分の授業の振り返りを行い、学生に還元する。
また、新たな人材の登用はもちろん、安定するまでは経験の浅い教員に対し経験の長い教員がカバーすることで対応していく。

(4) 学修成果 介護福祉学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 教務と学生サポートセンターが連携を取り、学生の希望や特性に合わせて個別指導（求人紹介・履歴書添削・模擬面接等）を行い、学生の希望に沿った就職を実現している。
2. 新たな取り組みとして、苦手分野別のグループを作り、補講授業をおこなった。それまで得点率の低かった科目の得点アップにつながり、100%合格を達成した。
3. 学生の状況変化の早期発見、教員間の情報共有、早期対応に努め、2年連続退学率0%を達成した。
4. 5. 卒業生の社会的な活躍、評価、キャリア形成への効果の把握は、実習先や口コミにとどまり、全体の把握には至らなかった。

【課題】

卒業生に対する社会的な活躍、評価、キャリア形成への効果の把握をおこなう。

【改善方策等】

卒業生の就職先での情報収集。（就職先における評価等を聞く。）

(4) 学修成果 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 昨年度に続いて、就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生サポートセンター職員・学科教員との連携の中で目標の達成を図った。
2. 資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を継続した。また、毎年、国家試験問題を分析し出題科目毎の学習課題を明確にした上で対策を行った。定期試験も、2回に分け行い、国家試験本番に配慮した対策の一環として行った。その中で、卒業生の国家試験対策の結果を詳細に分析し、4年次学生の結果と比較することで、より精度の高い合否の可能性などを把握することが出来るようになった。同時に、学生一人ひとりへのよりの確なフィードバックを行えるようになった。
3. 主担・副担の2教員による学年担当制ならびにキャリアデザイン担当教員を配する中で、学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育みを支援した。特に、定期的な個別面談等の中で、学生個々の課題とストレングスを明確にすることに重点を置いた。しかし、留年からの経済的理由による退学が目立ったこと（理由の80%）により、重点対策の効果の限界も露呈することとなった。
4. 作業療法学科独自の卒業生の勉強会を継続的に実施して来たが、新型コロナウイルス感染症の流行により、活動が限定的となってしまった。しかし、Zoomなどの活用により、最低限の活動継続を維持することは出来た。
5. 項目4の活動から得られるフィードバック内容を、学科教育活動の改善に活用した。特に、協働しての地域社会への情報発信などを、学科のSNSを活用し開始した。

【課題】

- 1 資格取得、就職はもちろんのこと、日常的な学生一人ひとりの個別サポートをより徹底すること。
- 2 ICTをより活用した国家試験対策を行うこと。特に以下3つを関連させて分析していく。
 - ①専門基礎（特に解剖学・運動学・生理学）の見直し
 - ②過年度の国家試験の傾向と合格率
 - ③外部模試の結果
- 3 退学可能性などの高リスク学生に対し早期の介入をすること。

【改善方策等】

課題1に対して

昨年度に続いて、就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生サポートセンター・学科教員との連携の中で目標の達成をより図る。特に、学生と希望する就職先とのマッチングに対し、より丁寧なフィードバックを含めた個別サポートを行う（試験対策、模擬面接練習等）。

課題2に対して

昨年度に続いて、作業療法士国家資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を継続する。また、ICTをより活用した国家試験対策を行う。具体的には、対策問題の配信を定期的に行い、学習進捗状況の分析と課題の明確化に活用する。同時に、4年生一人ひとりに国試担当サポート教員を配置し、国試対策個別面談と、小グループでの動機づけ等を定期的実施する。

課題3に対して

集中力の低下や生活リズムなどの乱れ、成績の伸び悩み、経済的困難さ（捉えづらい）などをリスク要因と捉え、リスク要因の高い学生に対して、オーダーメイド式のサポート内容（各教員役割等）を明確にして取り組むこととする。

経済的困難がある学生に対しては、学生支援機構等メジャーな奨学金の他にも、活用できる奨学金や給付金を学科でリサーチし、提示していきたい。

(4) 学修成果 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 学生と密にやり取りをしており、その都度必要な情報を提供できている。また、関連業界の動向は把握できており情報の共有もできている。

2. 令和2年度は、前年度(95.6%)よりも低下し93.4%となった。既卒の合格率が低下した結果である。そのため、令和2年度の対策は効果的ではなかったと評価できる。新卒者における国家試験受験までの対策プロセスが退化していることはないが、対応できる学生が少なくなっていることは実感しており、その原因となる養成課程の問題もある程度の予測ができている。それが成果に反映できていない理由には複数あるが、退学率・進級率の兼ね合いや受験判断基準のゆれなどはその要因として大きいと考える。既卒者に対する対応も、卒業から時間が経過してしまうことにより、受験に対する動機づけが内発的ではなくなってしまうことがあり、資格取得に対する意思確認は厳密に行えないと資格取得率を向上させることは困難であると考えます。

3. 各退学者の要因など状況の把握がしっかりと把握できている。退学に若干傾いた学生の心理面や学習面への対応をすることで、年度当初に掲げた目標の数値が達成できたことは評価される。結果として過去最高の在籍者数を確保できた。これらを意識しつつ学習の習得度への関心を持ち、早めの対応をすることが今後の課題であり、今年度対応の重点目標でもある。

4. 様々なネットワークにより情報が入ってくるため把握できている。

5. 就職先が県内周辺地域であることから、年を重ねるごとに各方面での活躍をしている卒業生が増えた。それらの人材を講師として積極的に関わりを持ってもらうようにカリキュラムを構成している。

【課題】

新卒の合格率を上げるためには、短期的ではなく長期的な視点での対応が必要である。

【改善方策等】

基礎知識の重要性は過去にも言われてきたが、明確に課題としてのフォーカスをあて、修得に取り組むスケジュールを計画する。そのうえで卒業試験の水準を上げ、それに到達しなかった学生については、ストレート卒業率よりも国家試験新卒合格率を見据えて留年（あるいは卒業延期）を選択する。

(4) 学修成果 看護学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 就職活動については学生サポートセンターが主体となり就職活動を支援した。結果的に就職率は高率であったが、学科としても学生の就職活動に積極的に参画する必要がある、改善の余地がある。

2. 本校は専門学校であり、国家試験合格は、学修成果として重要な意味をもつ。過去2年間は全国平均を超える数値を達成したが、今年度は届かなかった。要因として、国家試験対策に挑む学生本人への動機づけや、伸び悩みの際の個別に応じた対応に不足点があったと分析する。

3. 令和2年度は退学者数を昨年度の半数におさえることが出来た。過去5年間退学者数が増加傾向にあり、分析の結果、単位を落とす、再試験が重なるなどの学業不振により学生は混乱し、その後を悲観し、進路変更につながることが多いことが明らかになった。令和2年度から学校が掲げる数値目標を意識し、低迷している学生に対しては担任が主となり関わり、難局を乗り切る方法を共に考えるなどしてサポートした結果、過去5年間の中で最小値となった。

今後も学生個々の状況を把握し、教員間で共有した上で、予測的に学科が一丸となって関わることが重要である。また規定の修業年限で卒業できない学生に対しては、それぞれの状況に応じ、手厚い目標達成支援が求められる。

4. 1～2回/年卒業生を招き、在校生と交流する機会を設け、卒業後の様子を把握する機会としているが、今年度は感染症拡大の関係から実施できなかった。

5. 定期的な卒業生との交流会における情報収集にとどまっている。

【課題】

- ① 資格取得に関して、本校の学生に合った段階的な計画の立案と実施。
- ② 情報共有に基づく、一人ひとりの学生に応じた目標達成支援の強化。
- ③ 卒業後の就業において、在学中の教育方法が必要に足りるものか検証する必要がある。

【改善方策等】

- ① 国家試験対策の従来の方法の効果検証および見直し。
- ② 情報共有に基づく、学生の目標達成支援に向けた体制の再構築。注視する必要がある学生状況に

関しては1回／月の教務会議で状況を報告して教員間で把握し、継続支援を実施する。

③ 卒業後の就職先からの情報収集についての検討。

(4) 学修成果 助産学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 令和2年度はコロナ禍にあり、就職活動の開始時期が感染拡大と重なり、学生は不安を抱えての活動となった。オンライン面接等、これまでと異なる形態の就職活動に対し、情報を得ながら支援に当たった。12月にはすべての学生の内定を得ることが出来た。
2. 本学科としての支援体制は確立し、4年連続助産師国家試験合格率は100%を達成した。学科開設以来、全国平均を上回る合格率を維持している。個別の伸びに着目し、低迷期にある学生には聞き取りを行い、支援を徹底している。
3. 教員間で情報共有を行い、学生に納得のいく対応を心がけている。結果的に学生との信頼関係が構築できており、学生満足度調査では高い評価を得ている。
4. 卒年2回開催するhome coming day!が定着し、卒業生の動向を一部把握する機会となっている。
5. 卒業生の活躍については就職先からの情報収集を行い、動向を把握するにとどまっている。教育課程に反映させる目的では行っていない。

【課題】

卒後の就業に足る教育内容であるかの検証。

【改善方策等】

就業先への調査などの検討。

(4) 学修成果 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	2
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 卒業生（4期生）の国家試験合格率は新卒73.3%（2年で卒業したもの80.0%）であり、学習成果があったとは言えない部分がある。近年学習課題の方針変更を行ったが、変更した方針に沿う形で改めて今後の学習課題の内容の検討が必要である。
2. 退学的意思を示してきた学生もいたが、面談しながら個別的な進捗計画を作成することで、退学せずに学習を継続できている。最終的な退学者は、在学可能期間中に単位取得が困難になった学生1名である。令和2年度も退学者を最小限にとどめたといえる。
3. 実習施設に就業している学生も多く、その学生に関しては実習施設訪問時に様子を伺うようにしている。また、卒後の就業状況の調査時や在校生に向けての卒業生の講話依頼時など、折に触れ卒業生本人とコンタクトをとっている。
4. 主に実習施設からの意見を適宜学生に還元している。また、卒業生の話を在校生に聞かせる機会をつくる、機関紙に掲載するなど、卒業生からの声を在校生に届ける機会を設けている。

【課題】

1. 国家試験合格率の全国平均より高くするための国家試験対策を検討すること。
合格率を基に学習課題の内容、提示方法変更についての分析と今後学習課題の内容・提示方法のブラッシュアップを図る。
2. 退学者・休学者を最小限にとどめること。

【改善方策等】

1. 入学時の学力を精査し、国家試験までの学力向上を図る。
模擬試験の結果と学習課題の内容の関係性を検討し、学習課題の内容を検討する。
教員向けの国家試験対策のセミナー等に積極的に参加して情報を収集し、学生と教育体制の特性を考慮して教員間で国家試験対策を立案し、実施する。
2. 学生の学習状況や生活状況を把握し、学生個人にあった学習プログラムの検討を行い、学習が継続できるように支援する。

(4) 学修成果 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 就職希望者の相談、支援、指導は全教員でサポート体制を組んでいる。
2. 国試対策の遅れが結果として出てしまった感は否めない。また、変化・難解化した国家試験の傾向が読み切れなかった。令和3年度は学生に早期から国家試験の重要性を指導し、対策に取り組んでいく。
3. 教員は学生に寄り添い、問題がある学生に関しては教員間で情報を共有し、退学・休学・留年の防止に努めることができた。
4. 卒業生が学校に来校し相談に来た場合は可能な限りの支援をしている。
5. 実習先に卒業生がいる場合が多く、意見をいただき教育活動や実習指導に生かしている。卒後の職能団体への入会を促し、帰属意識を形成していく。

【課題】

資格取得に関して、国家試験のための組織立った対策計画・実施が不足している。

【改善方策等】

国家試験対策は、本番の日程が比較的遅いこともあり、3年生の夏休み頃から本格的に実施していたが、計画を立てて3年生の春から行う。
 現在模試の成績によって少人数でグループ分けし、担当教員をつけている。また、学生相互で学び合う機会をつくることも検討中。

(5) 学生支援

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 就職支援の専門部署として、学生サポートセンター内にキャリア部門を配置し、入学後からキャリア教育を実施している。また就職活動に関しては担任と連携し、履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するガイダンスを実施するとともに、就職に関する個別の相談に適切に対応している。今年度はコロナ禍によるリモート面接等にも対応すべく取り組んでいる。さらに求人情報の開示等充実した就職情報を提供できる支援体制を整備した。

2. 学生の相談については、相談室の専門カウンセラーおよび学生の状況に合わせて学生サポートセンターの職員が対応している。カウンセラーとして公認心理士を配置するとともに、学生が利用しやすい相談室の環境整備を行ったことで、相談数が増加し学生のメンタルヘルスに繋がっている。

3. 日本学生支援機構の各種奨学金の他に、国の教育ローン、県の修学資金制度等をはじめとした公的機関の奨学金制度、病院の奨学金制度の紹介・案内及び取次事務を積極的に進めている。

学費納入が困難な学生には分納・延納などで柔軟に対応しているほか、入学金の減免制度、一部学科に関しては社会人経験者の学生向けに教育訓練給付制度も導入している。

また、両校とも令和2年度から開始された修学支援新制度（給付型奨学金＋授業料等減免）の対象校として認定されている。

4. 定期健康診断を実施し、記録を管理するとともに、有所見者へ適切な対応をしている。また、各号館の窓口に常備薬を置き、保健室及びAEDを設けている。

5. 例年、スポーツ大会、うづま祭など学生の自治会活動の企画・運営およびボランティア活動に対して積極的に奨励・支援を行っているが、令和2年度はコロナ禍により思うような実施には至らなかった。

6. 必要に応じて学校近辺のアパートや駐車場の紹介を行っている。

今年度は、コロナ禍の新しい生活様式の実践に伴い、感染症対策として各号館には自動手指消毒器や非接触型検温器、学生利用スペースには飛沫防止アクリルパーティション等を設置した。また図書館等では

利用制限をかける等の感染対策を講じている。

7. 対応が必要な学生がいる場合、適宜保護者に連絡し、問題の解決にあたって適切な連携を取っている。また、後援会（保護者会）を組織し、学校教育活動に関する情報を提供して連携にも力を入れている。
8. 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職・再就職の相談などに応じるといった支援を行っている。また、国家試験に合格することができなかった学生に対しては、対策講座の聴講や模擬試験、図書館の開放等の体制を取っている。さらに、同窓会を組織し、卒業後に研究会を開催するとともに研究活動に対応すべく医学関連ジャーナルおよび電子書籍などの医療情報を提供している。
9. 社会人経験者および社会人学生の学修支援、履修制度の整備として、社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則で定め、適切に認定している。また、経済的な支援環境としては一部学科に限られるが、教育訓練給付金の指定を受けており、給付条件に当てはまる社会人学生が利用できるようになっている。
10. 高校からの依頼で模擬授業や進学ガイダンスを積極的に引き受けている。例年、栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会や全体研修会等に参加し、高校の教員と情報を共有するなどの連携を取っているが、コロナ禍で思うような実施には至らなかった。

【課題】

学生相談室の活用に関しては、相談者が増加し軌道に乗りつつあるが、さらに学生および教職員への周知および常時相談に応じている職員のカウンセリングのスキルの向上が必要である。
コロナ禍において、例年出来ている学生支援が実施出来なかった。

【改善方策等】

今後は教職員のカウンセリングのスキル向上にむけて研修会や勉強会を継続的に実施する。また、多様化する相談内容の解決にむけて、組織体制を整え対応のためのマニュアル等を作成していく。
コロナ禍においても、よりよい学生支援が実施できる様に社会情勢をみて方策を講じる。

(6) 教育環境

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応は勿論の事、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。

学習方法、指導方法の多様化が進んでいることから、特に視聴覚、IT関連の設備・機器については、年間の使用計画と予算に基づいて、毎年、定期的に可能な限り最新のものに更新している。特に令和2年度については、コロナ禍につき対応を余儀なくされたオンライン授業に必要な設備・システムを整備し、また、情報科学の授業で使用するパソコンを一新した。

2. 実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。

実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置、もしくは定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。

3. 防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年1回実施し、消火器・非常ベル等の消防設備は、法令に基づき年に2回の点検を実施している。また、ミサイル発射に関するJアラート時の対応ルールも整備している。

なお、令和2年度の防災訓練においては、コロナ禍につき密を避ける為、学生を避難集合させず、避難経路や避難行動を学生に紹介する動画コンテンツを作成し、それに代わるものとした。

4. 前年度まで整備されていなかった、学校安全計画、学校保健計画、危機管理マニュアルを整備した。

【課題】

4について、危機管理マニュアル等を整備する事はできたが、今回のもので完成とはせず、今後も内容をアップデートしていく必要があると考えている。

【改善方策等】

4について、危機管理マニュアル等のアップデートの為、学校生活における危険や日々変化する社会的危機等の情報収集を怠らないものとする。

(7) 学生の受入れ募集

Q	評価項目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	3
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. コロナの影響による学校休業の為、5月～6月までのガイダンスはすべて中止となったが、再開後は校内ガイダンスに積極的に参加し、希望者に対し教育活動等の情報提供を行っている。また、高校訪問に関しては7月・9月・12月に実施し、主に訪問先の教職員の方向けに入試情報等の情報提供に取り組んでいる。
2. 栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき、願書受付時期の設定や広報活動を行っている。入試選考内容もAO入試・推薦入試・一般入試・社会人入試を実施している。
3. 学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭・公正に記載している。教育成果についても真実を正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校校内ガイダンス等の募集活動においても別紙チラシ等を作成し情報提供を行っている。
4. 全日制課程、通信制課程各学科の学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており、妥当なものと考えている。また、金額や減免制度は募集要項・ホームページ等に明示している。
5. 入学選考基準については学科毎に設定し運用している。入試判定会議では、理事長・校長・副校長・事務局長・学科長が出席し、それぞれの視点から判定を行い、合否を決定している。
6. 願書受付開始以降、出願があった場合には随時報告を行い、現在の募集状況の周知を行っている。運営会議では、年度初めに定めた目標値と比較した月毎のデータを提示している。

【課題】

3. オンライン募集活動の更なる強化。

【改善方策等】

3. コロナ渦の中で、オンライン動画コンテンツの配信を行い、情報発信し募集活動に繋げていく。
 ・SNS（インスタグラム・フェイスブック・ツイッター）にて情報発信を行っている。
 インスタグラムのフォロワー数は伸びつつあるが、フェイスブック・ツイッターはフォロワー数が伸び悩んでいる為、中身の見直しが必要である。

(8) 財務

Q	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 定員充足率を上げ退学・除籍等を減らし、厳しい予算編成でも収支のバランスを注視しながら運営をしていくよう努力している。
2. 予算は計画に従って妥当に執行されているが、予算超過が見込まれる場合は適正に補正措置を行っている。
3. 会計監査は法人本部の所管で適切なスケジュールで監事による監査（外部）を実施してる。会計事務所による定期的なアドバイスを受けており指摘事項があった場合には適切に是正措置を講じている。
4. 財務情報はホームページにて公開している。

【課題】

学納金の増減で年度によって財務状況が不安定にならないよう学納金の管理を徹底し、一定水準の学納金の収入確保を法人全体として対策を今後も継続して考えていく。

【改善方策等】

学納金収入の安定
経費削減を引き続き実施

(9) 法令等の遵守

Q	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. 専修学校設置基準及び専修学校の教育に関わる各種の法令を遵守している。また、法令等の指定学科にあっては、その基準及び取得可能な資格に関する諸法令を遵守し適正な運営をしている。
令和2年度は、定員の変更、介護福祉学科の指定規則変更に係る申請や、看護系学科と理学療法学科作業療法学科で県の指導調査が実施されており、問題なく完了している。
2. 個人情報については「個人情報保護基本方針」・「個人情報の保護に関する規則」を定め、対策を取っている。また、学校ホームページについては、令和2年度より通信セキュリティの強化を実施した。
3. 毎年新年度初めに前年度の自己評価を学科・部署ごとに行い、現状や取り組むべき課題等を報告書としてまとめた上で、その年の重点課題・運営方針と併せて教育活動や学校運営の改善に努めている。
4. 自己評価及び学校関係者評価結果の報告書をはじめとした学校の諸情報は、ホームページの「情報公開」にて公開している。

【課題】

教職員全体への学校評価の浸透・理解を含む組織体制については、継続課題となっている。

【改善方策等】

学校評価のシステムと実施意義を周知するための資料作り、並びに組織体制整備のための働きかけを行う。併せて各学科部署が活用できる評価活動とするため、評価項目の再構築も検討する。

(10) 社会貢献・地域貢献

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和2年度の取り組みと状況など）】

1. コロナ禍により例年通りの人的資源および物的資源の面での貢献ができなかったが、各自治体で実施する研修会へ学校物品の貸与、および団体研修への学校施設・機器備品の貸与を積極的に実施し、社会貢献・地域貢献を行った
2. 定期的な地域清掃活動やボランティア活動、各種義援金活動を実施した。また、看護・福祉系学科においては授業の一環として実習先からの依頼をはじめとしたボランティア活動を積極的に奨励・支援して実施している。
3. 国の機関における事業の介護委託訓練生の受入れ及び、一般教育訓練・専門実践教育訓練の指定認定を受けるなど積極的に実施している。

【課題】

学生のボランティア活動などの社会活動について、学校として積極的に奨励、支援しているが、コロナ禍で活動が制限されてしまった。

【改善方策等】

今後は、社会情勢をみて学生ボランティア活動を組織的に支援していく。また、活動実績を把握するとともに結果を学内で共有できるように体制を整えていく。